

USJワンダー・キッズ・プログラム を受けて

この度、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの招待を受けて、5年生の女児3名と6年生の女児1名と共にワンダー・キッズ・プログラムに参加させて頂きました。USJへ着くと、まずは開会式があり仕事体験への導入で自己分析を行いました。子ども達には改めて自分を見つめ、自分を知る良い機会になったと思います。次に仕事体験でフラワーアレンジメントをしました。子ども達は真剣に説明を聞き、個性溢れるデザインに仕上げ、今も大切に飾っています。パークに出ると様々な職種のクルーに、その仕事には何が一番大切なかをインタビューしました。インタビューの合間にアトラクションにも乗せて頂き、子どもたちは満面の笑みで楽しんでいました。



様々な職種に触れ、仕事に対する熱意を聞かせて頂いたことは、子ども達にとって大変貴重な経験になったと思います。

また私自身も童心に返り、子ども達と一緒に楽しい時間を過ごせたことを大変感謝しています。

幼稚園 花本

USJの職場体験で、つらつらアレンジメントをしました。ミニオンをお花でつくって、ミニオンのゴーグルをつくりました。ミニオンにゴーグルをはいつけるのがわざわざかったです。

自分でスponジにお花をさすところが楽しかったです。良い思い出ができました。

小学5年生 K



学習支援の場には、小学1年生から6年生までが通ってきます。この時期の子どもの成長・発達は、自覚正しいものですが、「学力」のほかには一体どんな力を身につけているのでしょうか。1年生は、初めて経験することや不慣れなことだらけです。枠線に合わせて文字や数字の大きさを調整するって難しい、宿題を1日に3つも4つも出されるとどれか抜けそう、時間割を合わせるってどうやるの…。これらは、自分で見た情報と手で行う作業とを協応させる力や、情報を記憶しておいて実行する力、先の予定を見通したり予測したりして準備を行う力などを身につけるための一歩踏み出しだしです。2年生に上がる頃には、たいへん苦もなくこなせるようになるのは大したものですね。その後は、学習中におしゃべりを始めるといつまでも楽しげにペチャくちゃやついて、課題はちっとも進みません。それが3年生になると、自分でもおしゃべりを切り上げて課題に戻るようになります。他者すなわち外部から示されるだけだった「今やらねばならないこと」という規律が、子ども自身にもなじみ、内面化されてくる時期です。そして4年生となると、おしゃべりしながら課題をこなすという技を心得し始めます。注意の振り分けや切りかえのコントロール力が安定してきたことの表れです。これらの力は、学習活動に限らず、これから大人になっていく上でも大切な力です。それとの子どもの得意不得意を個性として把握し、得意は伸ばし苦手は補えるような支援を心掛けたいと考えています。

療育・学習支援 山岡

発達のみちすじ

つむぎ

近年、メディアで社会的養護や里親制度について取り上げられる機会が増え、社会の関心が高まっています。里親支援機関つむぎでも、里親制度の普及と里親家庭の新規開拓を目指して、行政や企業の方々にご協力いただきながら、地域に密着した広報普及活動を行ってきました。家庭の形が多様化し、誰もが社会の援助を必要とする立場になり得るいま、より多くの方に社会的養護や里親制度は身近にあるものだという認識を持っていただく必要があると考えています。今年はつむぎ発足3年目を迎え、助松公園さくら祭や和泉市商工まつりなどの地域イベントへの参加や、広報活動でもお声掛けいただくことが増えました。里親家庭の中で子どもと里親が相互作用し、個々の力や可能性を発揮できる関係性を築くことができるよう支援をおこなっています。里親として子どもを養育していくには、地域の理解とあたたかい支援が欠かせません。今後、里親制度をぜひご理解いただき皆様のご協力をよろしくお願いします。



つむぎ 笠松

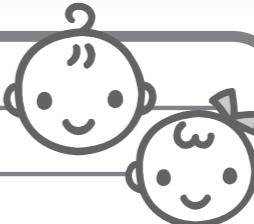
私も大事 ❤ あなたも大事 ～IHB 性教育プログラム～

和泉幼稚園では、高年齢児の増加に伴い、性教育の取り組みに力を入れるべく、プロジェクトチーム（I・H・B）I,importance,heart,body{私の大切な心とからだ}を平成29年より立ち上げて実施しています。

プログラム

*命の尊さ、重みを伝える

等身大の赤ちゃんの人形を抱き、実際の重さを体験してもらいました。不器用に赤ちゃんを抱く姿は微笑ましい光景でした。



*生い立ちの振り返り

*からだのしくみ、はたらき

手遊びを通して体の名称を教えました。その後、口やプライベートゾーン(水着で隠れる所)と伝え、体には大切な部分があり、人として守るべきモラルやルールがあることを教えています。このルールを理解することで、他者との適切な距離を学び、自身の体に興味を示し大切なものだと感じることが重要だと考えています。



*清潔、健康の大切さ

*基本感情を知る

嬉しい・不安・怒り・悲しいなど様々な感情があり、日々の中でしっかり言葉で表現し相手に伝える為、お互いの気持ちを理解するところから始めました。幼児は、基本感情のカードを提示し読み取りを一緒に行いました。学童は、感情のワードが書いているサイクロを一人ずつ転がし、出たワードのエピソードの発表をしました。実際に自身の気持ちを理解してもらったり、相手の気持ちを理解できる経験を増やしていくようにしています。

*良いタッチ、悪いタッチ

「ありがとう」と言ってもらえたり、安心できる人からの抱っこや握手などが良いタッチ。嫌なことを言われたり、物を投げられたりなどが悪いタッチ。この悪いタッチが自身にふりかかって来たときには、嫌と言う・逃げる・大人に言うという対処法を教え行動できるよう実践練習をしました。

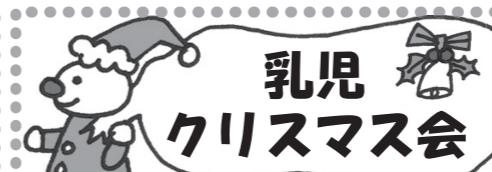


*第二次性微による身体や心の変化

性行動のルールと同意について考えるようになっています。

*性に関する危険

地域や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



12月9日に乳児院、全クラス合同で「クリスマス会」を開催しました。オープニングは職員によるハンドベルの演奏で始まり、静かに聞いている子ども達も演奏が終わると自然と拍手と笑顔が見られました。



そして、この日までに練習してきた各クラスダンスの披露です。カラフルな衣装を身に付け踊っている姿がとても微笑ましく、高月齢のクラスは大ブームを巻き起こした「USA」のダンスを披露しました。一人ひとり堂々と立ち、「ダサかっこ可愛く」決まり会場は盛り上がりいました。最後に煙突に挟まったサンタさんを子どもたちの「うんとこしょ、どっこいしょ」の掛け声で助け出し大喜び。保護者の方からも温かい拍手。私もハラハラドキドキでしたが、練習の時よりさらに発揮できた子や緊張してしまった子もみんな最後まで頑張ることができ、これからの自信に繋がるのではないかと思います。子どもたちの姿に成長を感じとても楽しく充実した1日となりました。



2018.12.09



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守することができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。



地元や学校で子どもが被害に遭う事件が後を絶ちません。被害の実態として低年齢化していることもあります。被害の防止という観点から、なるべく早くから性的健康教育を始める必要があると考えています。そこで子どもたちの休日などを利用し、2歳児から中学生まで年齢別にグループを分け、30分から45分程度の時間で取り組んでいます。職員も学ぶ機会をもち、安心して施設の中で性を語れる関係を作ることで、子どもをリスクから守ることができます。職員は子どもの多様性を受け入れ子どもが自分らしく生きられる環境を作っていく責任があると考えています。

